

## 弁護士

### たてともこ 豎十萌子さん (33)

埼玉中央法律事務所  
埼玉弁護士会



事務所でデスクに向かう豎十萌子さん。  
この後すぐ、万引きで逮捕された依頼者との面会に飛び出していました

## 立ち直るまで手助けし続ける

### 人間の強さを間近で見られる

弁護士とひとくちにいても、ビジネスの世界から日常生活まで法律の専門知識を役立てる場面はたくさんあります。

豎さんは、風邪をひいた患者を診る町のお医者さんのように、さまざまな問題を抱えた人の相談にのる町の弁護士「町弁」。裁判では依頼者を弁護し、そのための事務手続きを行います。

たいてい40件以上の相談を抱え、書類づくりが深夜までかかることもあります。それでも「仕事が生きがいで、仕事で癒されてきた」ときっぱり。「人間の強さを間近で見られること」が喜びだといえます。

「最初に相談に来た時は夫の浮気や暴力で夜も眠れないほど悩んでいた女性が、離婚を経て仕事を見つけ、子どもと向き合うようになるまで立ち直る。いい意味で依頼者に裏切られることが多いんです」

弁護士の数を増やして身近な存在にしようと司法制度改革が行われ、2006年に

始まった新司法試験に合格した1期生。「その期待の中で受かった私たちには、社会に貢献する新しい弁護士像をつくる責任がある」と考えています。

### 女性が語り合えるカフェを開催

離婚や家庭内暴力(DV)など、女性問題に力を入れています。「弁護士の仕事は、離婚が成立すると終わり。でも、多

### 豎さんの1日

(ある日の一例)

- 9:00 ● 事務所に出勤して、メールや書類に目を通す
- 9:30 ● 裁判所へ。大量の紙資料をキャリーバッグに入れて移動
- 10:00 ● 裁判や調停
- 12:00 ● 昼食(仕事をしながらが多い)
- 13:00 ● 事務所で依頼者に会ったり、法テラス(日本司法支援センター)で法律相談のったりする
- 17:00 ● 帰宅。家事と育児
- 21:00 ● 資料や原稿をまとめる

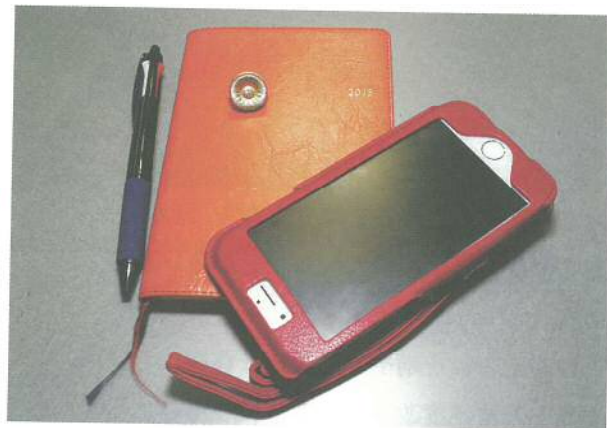
くの方は離婚後の生活に不安を抱えています」

同じ立場の女性が語り合える場があれば、と考えて2年前に始めたのが2カ月に1度開いている「はぐたまカフェ」。看護師など専門家も参加するので、健康や子育ての悩みも相談できます。「依頼者の元気な顔を見ると私も安心できるし、何かあれば助けられる。『自己満足の会』でもあるのです」

結婚して1児の母になり、仕事とのバランスを取りながらの毎日。「出産で痛い痛いといっていた時に助産師さんの優しさに触れて、私も依頼者にはこう接しようと思いました」と笑います。母としての経験も仕事に生きると考えています。

### こだわりアイテム

スケジュール帳とペン(赤黒ボールペンとシャープペンが一つになったもの)。連絡やメールチェックのためのスマートフォン。身分を証明する弁護士バッジ。



### 後輩へのメッセージ 経験で人間性を豊かに

人が好きで、社会に関心があり、問題があったら「おかしいよね。立ち上がる」と動きたい人にとっては最適の職業。逆にそういう思いがないと続かないと思います。

私自身の学生時代は勉強第一で寄り道をしてこなかったのも、もっといろいろなことをしておけばよかったと思っています。人と向き合う仕事なので、人間性の勝負。趣味でも、アルバイトでも、人間の幅を広げる経験しておくといいですよ。

### しごとの3か条

#### 1. 行動する

社会の中で「変だ」ということがあったら、臆せず行動。それが法律家の役目だと自覚する

#### 2. 事実が大切

法律論で戦う際には、その前提となる事実が大切。よく調べて、事実をぶつける姿勢でいる

#### 3. 専門知識を高める

専門家なので常に勉強。仕事の時間以外にも勉強会などに出席して、よりよい解決法をさぐる

### 弁護士になるには？

司法試験に合格することが必要。司法試験を受けるためには、大学を卒業した後法科大学院で2~3年学ぶか、中学・高校・大学を出た後に「予備試験」に合格する必要がある。司法試験に合格した後は、1年間、司法研修所で司法修習を受け、修了試験に合格すると弁護士の資格を取得できる(2017年8月現在)。

### 竖さんのあゆみ



● 1981年 埼玉県生まれ

● 小学校時代

専業主婦の母、サラリーマンの父、姉の4人家族。週末も家事をしない父に「なぜお父さんだけ休んでるの」と、物心ついたころから女性の権利を考える子だった

● 中学校時代

軟式テニス部で部長を務める。「人をまとめるのが好きで、めだちたがり屋でした」

● 高校時代

進学校の埼玉県立大宮高校へ。相談にのった家族や友だちの笑顔を見ることに喜びを覚えるタイプだと自己分析して、弁護士を目指す

● 大学・大学院時代

中央大学法学部に進む。学部時代に2度旧司法試験に挑戦するも失敗。中央大学法科大学院(ロースクール)に1期生として入学

● 卒業後

2006年、新司法試験に合格。仙台市で1年間の司法修習を経て、今の事務所に就職する